

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 『三絆完遂 夢成就』・・・学習・部活動・行事の三つの絆を大切にバランスの良い人間形成に努め、生徒一人ひとりが生き生きとする学校づくりをめざす。
- 1 これからの社会を生き抜く「強さ」と「優しさ」を併せ持つ幹の太い生徒、未来を見据えて、自ら目標を定めて、挑戦する生徒を育てる。
  - 2 提案型教員集団を形成し、全教職員一丸となって学校の発展・継続に努め、魅力あふれる南河内の普通科特色校としての地歩を確立する。
  - 3 保護者・地域との連携を密にし、求められる教育活動を展開することにより、地域に愛され信頼される学校づくりに取り組む。

## 2 中期的目標

## 1 幹の太い生徒の育成

幹＝人間力（挨拶、思いやり、コミュニケーション力、問題解決力、洞察力、人間関係力、学力、規範意識、自尊感情、自立心）

(1) 分掌、学年、委員会が連携し、さまざまな教育活動を通して人間力を育成する。

- 生活規律の確立に取り組むことにより、高い規範意識を持ち、自らの意思で判断し行動できる生徒を育成する。
- 人権教育を推進し、多様性を尊重し、いじめ・差別をしない、させない意識を醸成し、安心・安全な学校づくりに努める。
- 様々な講演会や説明会・体験活動等の教育活動を通して、自らの将来を主体的に考え目標に向かって挑戦する力を育成する。
- 学校行事や部活動等を含め校内外の様々な教育活動に積極的・主体的に取り組む生徒を育成する。

※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」(H29:81%、H30:78%、R1:84%)、「学校生活に満足している」(H29:78%、H30:75%、R1:83%)の項目をどちらもR4年度には85%以上をめざす。また、「部活動に積極的に参加」の項目は毎年90%(H30:92%)以上を維持する。

## 2 希望の進路を実現する確かな学力の育成

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現することにより学習意欲の向上を図る、授業改革・授業改善

- 次期学習指導要領及び大学入試改革に対応した新しい教育課程への移行をスムーズに行い、かつ生徒の希望進路実現を叶える授業を展開する。研究授業等を行い、授業アンケート・学校教育自己診断等の分析を踏まえ、組織的に授業力の向上を図る。
- ICT 機器及び様々な教育ツールの活用による授業の工夫、授業見学や公開授業などを積極的に行い、振り返りや研究協議などで研鑽を積むことにより授業改善に努め、さらに質の高い授業をめざす。

※国公立大学現役合格10名以上、関西難関私立大学現役合格70名以上を維持する。

(2) 希望の進路を実現するための学力の育成

- 授業規律と学習習慣を確立し、授業への集中力を高め、学習に向かう意識を向上させる。
- 習熟度別・進路別少人数授業を行い、きめ細かな授業を展開する。
- 生徒の生活習慣や学力の現状を把握し、講習や補習等の教育活動や自習環境の整備を組織的、計画的に実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすい」(H29:68%、H30:65%、R1:71%)、「教え方の工夫」(H29:71%、H30:71%、R1:82%)の項目を令和4年度にはどちらも80%以上をめざす。

## 3 特色づくりの推進と地域連携、情報発信による学校力の向上

(1) 取り組んできた事業をさらに工夫・充実し、学校力を向上させることにより、南河内の普通科特色校としての地歩を確立する。

- eコース(esperanza:希望、education:教育)の取組みを継承し、生徒ニーズに対応した人気コースとして内容充実を図る。
- 実用英語検定資格の取得やGTEC受験に挑戦することにより、進路実現に結びつく英語力及びグローバル社会を生きる基礎力を養成する。
- 国際理解教育を推進することにより、異文化理解力と国際感覚を高め、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力などの育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の「学校生活の満足度」(R1:83%)を令和4年度には85%以上をめざす。

(2) 地域の人材・施設を積極的に活用し、幼稚園・小学校・中学校・大学との連携を活発に行うことにより、生徒の自己有用感・自尊感情を醸成する。

- 運動系・文化系クラブによる中学生との交流や地域の公演活動等への積極的参加など地域交流を拡充する。
- 地域の大学との連携授業等を行い、進路実現への意識向上を図る。

(3) 学校の魅力を再発見・創造し、WEBページの充実や配付物・説明会の工夫を重ねることで、保護者及び地域・関係機関等への積極的な情報発信を行う。

## 4 生徒支援の充実

(1) 教育相談体制を充実させ、関係機関等との連携を深め、支援の必要な生徒に適切に対応する。

- 課題を抱える生徒の支援のために、支援委員会と学年、関係機関等との連携を深め、生徒情報の共有と組織的な対応を促進する。

※生徒向け学校教育自己診断の「悩みを聞いてくれたり、相談に応じてくれたりする先生がいる」(R1:67%)の項目をR4年度には70%以上をめざす。

(2) 防災マニュアルを充実するとともに安全で安心な校内環境の整備に努め、災害に強い学校づくりに取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断における「災害時の行動を具体的に知らされている」(R1:81%)の項目をR4年度には90%以上をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 幹の 太い 生徒の 育成	(1) 人間力の育成 ア 生活規律の確立 イ 人権教育の推進 ウ キャリア教育の充実 エ 課外活動の充実	(1) ア・生活指導部は生徒自治会とも連携しながら挨拶の励行や遅刻の減少に引き続き努める。 イ・教職員向人権研修を実施するとともに、生徒向け人権学習を充実させ、学校全体の人権意識の向上を図る。 ・いじめの未然予防・早期発見に努め、組織として対応する。 ウ・講演会や説明会を通して生徒が卒業後の進路について考えるキャリア教育の取組みを充実させる。 エ・学校行事や部活動への生徒の積極的な参加を学校を挙げて推進する。	(1) ア・遅刻数 1,500 件以下を維持 (R1 : 1,139 件) イ・生徒の「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」の項目 85%以上を維持する。 ・「先生はいじめについて困ったことがあれば真剣に対応してくれる」85%以上に (R1 : 83%) ウ・「将来の生き方について考える機会がある」(R1 : 90%) の維持 エ・「部活動に積極的に参加している」90%以上、「学校行事は楽しい」85%以上の維持	
2 進路実現のための確かな学力の育成	(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業実践 ア 新学習指導要領と大学入試改革に対応した授業改善 イ ICT等ツールの活用による授業の工夫  (2) 希望進路の実現 ア 授業規律と学習習慣の確立 イ 生徒のニーズを踏まえた授業展開の継続 ウ 組織的・計画的な講習・補習・自習の取組み	(1) ア・次期学習指導要領・大学入試改革を踏まえ、教員プロジェクトチームによる授業研究・授業力向上の取組みを継続する。 イ・タブレットの使用や無線環境の整備等、ICTの活用を幅を広げ、活用する教員をさらに増やすことにより、生徒の興味、関心をさらに引き出す授業を展開する。  (2) ア・授業規律及び予習・復習等の授業準備の必要性を指導する。 イ・数学(2年生)と英語(1年生)において、少人数展開授業を実施し、苦手意識のある生徒の減少、得意生徒の学力向上を図る。 ウ・授業及び学年通信や集会などの機会を通じ、自学自習の意識の確立を図る。 ・授業外での学習時間が確保できる部活動の在り方に各顧問が取り組む。 ・生徒の学力推移・進路希望等の情報を学年、教科、分掌間で共有するとともに、進路指導に係る教員研修を実施し、生徒の希望進路に応じた学習内容、講習等を組織的・計画的に行う。	(1) ア・教員の「教育活動について教職員で日常的に話し合っている」の項目の80%以上を維持する。 イ・生徒の「先生の教え方には様々な工夫がなされている」「授業はわかりやすい」の項目についてそれぞれ75%以上をめざす。 ・授業アンケートの平均値を3.2以上にする。(R1 : 3.19) ・教員のICT機器活用率90%以上をめざす。  (2) ア・生徒の「宿題・課題がよく出る」80%以上を維持 イ・生徒の少人数展開授業に対するアンケートにおける肯定度80%以上をめざす。 ウ・進路指導に係る教員研修の実施 ・昨年度の進学実績(国公立大学現役6名合格、関西難関私立大学現役合格54名合格)を10%上昇させる。 ・卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。	
3 学校力の向上	(1) 特色づくりの取組み充実 ア eコースの学習活動の充実 イ 資格取得の推進 ウ 国際理解教育の推進  (2) 地域および他校種連携の充実 ア 地域連携および中高交流の充実 イ 高大連携の充実 ウ さらなる情報発信 エ 働き方改革の推進	(1) ア・eコースにおける体験学習・高大連携・発展学習を充実させ、進学意識の向上を図る。 ・生徒ニーズを把握し、eコースの在り方を検討する。 イ・実用英語検定またはGTEC4技能検定を全員受験とし、3年生の資格未取得者には英語検定受験を推奨する。 ウ・国際交流委員会を中心に交換留学などを積極的に受け入れ、国際理解教育推進を図る。  (2) ア・部活動での中高交流等において、生徒主体の地域連携の強化を図る。 イ・看護系希望生徒の大阪府立大学との連携授業により、進学意識の向上を図る。 ウ・学校の魅力が広く伝わるように企画するための教員プロジェクトチームを立ち上げ、効果的な情報発信を工夫する。 ・保護者のニーズを受け止め、懇談の機会を増やすなど、連携を密にして教育活動に当たる。 エ・外部人材の活用やノークラブデー及び一斉退庁日の徹底等により、負担軽減を図る。 ・協力体制のさらなる推進により業務の平準化を図る。	(1) ア・eコース生の教育系大学と国公立大学を併せた進学希望者80%以上を維持する。 ・eコース希望者の一定数の確保に務める。 イ・英検準2級以上の合格者100名以上を維持する。 ウ・生徒の国際理解教育に関する肯定度を70%以上で維持する。  (2) ア・部活動での中高交流10クラブ以上を維持する。 イ・卒業生アンケートによる進路実現の満足度80%以上を維持する。 ウ・学校説明会への参加者増加と参加者の満足度90%を維持する。 ・保護者アンケート「保護者からの相談に適切に対応してくれる」90%以上を維持 エ・教職員の平均時間外労働時間を前年度以下の水準にする。	
4 生徒支援の充実	(1) 教育相談体制の充実 ア 生徒情報の共有と組織的な対応  (2) 防災の取組み充実	(1) ア・支援を必要とする生徒のために、支援委員会と学年、SCや関係機関との連携を深め、生徒情報の共有と組織的な対応を継続する。 ・支援委員会を中心に、本校の現状にあった教育相談体制の充実を図る。  (2) 防災マニュアルの改訂と、災害時の連絡体制を確立する。	(1) ア・生徒の「悩みを聞いてくれたり相談に応じてくれたりする先生がいる」の項目を70%以上に(R1 : 67%)。  (2)・災害時の連絡100%の体制を実現する。「災害時の行動を具体的に知らされている」80%以上をめざす。	

\* 学校教育自己診断による数値目標については、令和2年度より集計の方法を変更しています。